

大船中央病院

院長の須藤博医師を中心に、米国の臨床研修病院では必ず行なわれている Morning Report を研修医向けに週3回実施しています。米国で臨床を経験した当院の医師たちの声かけで始まり、かれこれ8年以上経ちます。当院の Morning Report は、研修医が実際に経験した症例を他の研修医に臨床推論させるカンファレンスですが、参加する指導医や上級医にとっても必ず何かしら気づきを得られる貴重な場となっています。当院の特別顧問として上野文昭医師 (MACP,MACG) が在籍しており、Morning Report ではオブザーバーとして研修医に直接アドバイスをいただいています。他に、New England Journal of Medicine の人気連載である“Clinical Problem-Solving”形式の「大船 GIM カンファレンス」を年4回開催しています。主訴・年齢・性別から想起できる鑑別を挙げ、病歴聴取と身体診察で鑑別を絞り込み、最終診断にたどり着く、というふうにこちらも臨床推論のカンファレンスです。通称“大船 GIM”には、近隣の医師だけでなく、北は北海道、南は沖縄、教授クラスのベテラン医師から医学部4年生と幅広い年齢層、地域の方が参加します。診療科や専門を超えて医師としてのスキルアップを常に持ち続ける方々と出会える貴重な場となっています。当院で研修を終えた研修医には基本的な診断能力とその方法を身につけさせることができていると自負していますが、今後、当院が取り組むべき課題は、若手医師や研修医に真のベッドサイド教育を提供することだと考えています。病歴聴取と身体診察を若手医師が身につけるべきスキルと位置づけ、身につけるための研修の場はベッドサイドにこそあると思っています。愚直なまでに臨床の現場で患者さんと向き合うことが真の臨床医となる近道だと信じています。

私たちの考えに共感いただける全国の先生方、ぜひ私たちと一緒に仕事をしましょう。
ご連絡お待ちしております。